

南アルプス

憧れの南ア深南部！

遠山川・池口沢

星野

まさか沢登りで、深南部に行く事になるとは思わなかった。いつか行きたいと思っていたが、一人で登山していた頃は、車もない私にはアクセス的にとても遠い場所だった。

踏み跡も薄く、人の気配がしない、背丈に近い笹原が広がる山深いイメージの深南部。憧れだったので、今回足を踏み入れる事が出来てとても嬉しい。

8月8日 晴れ

最初に謝らせてください！

実は、どんな沢だったかの記憶が、鮮明でなく、それでも記録書くわけですが、ほとんど感想みたいなものなので、これから池口沢に行く人の参考には全くならない記録です。

今回この沢に決めた経緯だが、太陽を求めてテレビ会議で話し合った結果、南アルプスに行こう！となったのだが、先週黄蓮谷に行っているのでも別の場所にしたかった。画面共有で地形図を見ながら、考えた結果がここだった。

東京出発が遅かったため、かなりゆっくりめの出発。茂みの中の踏み跡をしばらくたどると、広い河原にでた。堰堤を

超えると、ゴーロがしばらく続く。すると、沢幅が狭くなり、ちょっとしたゴルジュの様相になる。少し深そうで流れも強い小滝

は、右側から簡単に超えられるが、吉澤先生の突破教室が始まる。ロープをつけて、いざ！…流れに勝てずゴスゴ敗退し、先生にバトンタッチ。先生、力強く突破。



ホシノ行きます！

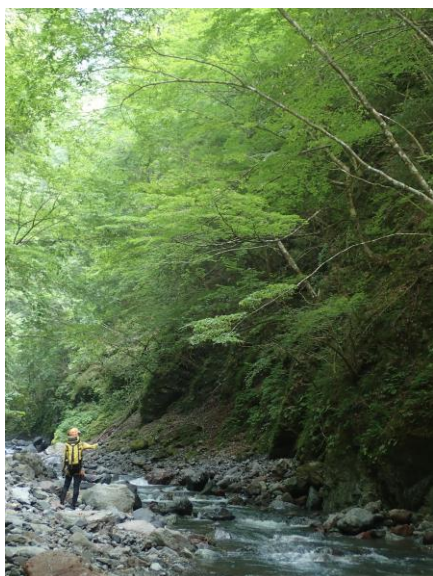


ホシノ行けませんでした..

栗原さん、お待たせしてすみませんでした。

寒くないので、時々突破を試みたりしながらミニゴルジュを過ぎると、再びゴーロとなる。この先は、大きな崩壊跡が度々現れ、南アルプス特有の景観かと思うが、横断する時は足元が崩れやすく、慎重になる。

沢が穏やかになると、吉澤さんの釣りの時間が始まり、竿を出しながらゆっくり進む。



1時間以上粘っただろうか、釣果は丸々と太った岩魚1匹と、小ぶりの岩魚の2匹と、素晴らしいです。

本日の幕場は、二俣付近の予定だったが、釜を巻いている時に足を滑らせて、釜に落ちてしまい全身びしょ濡れになりモチベーションが下がったので、手前で泊まる事にした。太った岩魚は、お刺身にし、小ぶりの岩魚は塩焼きにした。骨を良く焼いた物が香ばしくて美味しかった。

8月9日 晴れ

昨日の夜の緊急会議で、もう1泊して梶谷川を下降するかしらないか？議論の結果、明日中に登山道で下山する事になった。里心かしら。

時々、小滝やミニゴルジュも出てくる。朝から濡れたくないが、びしょ濡れになる滝もある。



この滝は濡れる

倒木のかかった滝は、栗原さんが突破してくれて、お助けで登った。

その先も小滝など出てきたと思うが、記憶が定かでない。

右俣に入り、しばらくすると水が枯れ、脆く崩れやすい急な斜面を慎重に登ると、池口岳から西に派生する尾根に乗れた。この脆い斜面は、しっかりした灌木もなく、足元はグズグズ土な上に急なので、慣れてないとロープが欲しいところかもしれない。派生した尾根は大した



藪漕ぎは無いが、急な登りが足に応える。

1歩1歩、牛歩の歩みでやっと山頂に到着した。池口岳北峰は、展望もなく樹林に囲まれた、ひっそりとまさしく深南部にふさわしいピークだった。周りはガスが漂い、やはり深南部らしい演出。しばし休憩する



残念ながら、ガスで視界が悪く光岳は見えなかった。

登山道は、思ったよりは踏み跡がしっかりしている。針葉樹の向こう側に、緑の光り輝く絨毯がぽっかり開け、不思議な異世界への入り口のような。そこだけ光が指している。

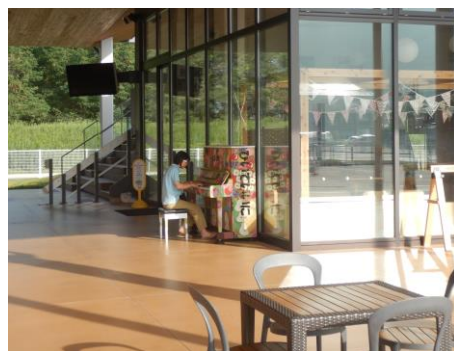


不思議な異世界への入り口？

尾根は、片側斜面が大きく崩れている場所も頻繁に見られ、やはり南アらしい景観だ。ナデシコやハクサンフウロ等の

ピンク系のお花がそこかしこに見られ、目を楽しませてくれる。しばらく進むと、前方から人の声がする！こんなマイナーな山に登る物好きがいる事に驚く。男性の二人パーティで、光岳までピストンとの事だ。泊まりらしいが、水場がないから、ボッカしてるのだろうか。苔むした針葉樹の深い森の中を歩くのは気持ちが良い。時々、とても素敵なテラスも見られ、泊まりたくなる。おしゃべりしながら、長いが緩やかな登山道を降りて、駐車場に戻ってきた。

その日は道の駅に泊まり、翌日は諏訪大社を観光して帰ってきた。



道の駅でピアノを弾く栗原さん

DATA

山行日 2020年8月8日(土)～8月9日(日)

行程 8/8 入溪(11:00)～C1(17:00)8/9 C1(7:00)～山頂(12:30)～駐車場(17:00)

グレード 2級

地形図 伊那和田、池口岳

メンバー 星野(L)、吉澤、栗原